



展示書籍を手にとって鑑賞することができる企画展

ブックデザインで癒やし

資料館 40点の書籍を展示

弘前大学文京キャンパス内にある同大資料館で、企画展「弘前大学出版会のブックデザイン」が開かれている。新型コロナウイルス感染症で疲れている地域の人をデザインで癒やそうと、同大学で出版された約40点の書籍を展示している。5月28日まで。

同出版会は2004年、教育研究の成果を広く社会に発信するため、学内組織の一つとして設立された。教員が編集員となり、企画からレイアウト、装丁まで自分で書籍作りを担う。また、研究の一環として学生

がデザインを担当するなど、大学の力を結集して制作している。同出版会が設立されてから15年以上がたち、地域に根差した本は現在までに3

00点を越えた。企画展は、ブックデザインの過程を通して研究内容を知ってもらうほか、地元を知るきっかけづくりになればと昨年10月に同出版会事務局が発案。長年にわたり編集員を務める教育学部の佐藤光輝

准教授が中心になり、書籍選びや展示パネルの制作をした。作品のうち約30点は手に取って鑑賞できる。佐藤准教授は「パネルのデザイン案は学生らが試行錯誤した証し。これから大学を目指す子どもや地域の人に大学の研究、出版会を知ってもらいたい」と話し

た。日曜、祝日は休館。時間は午前10時～午後4時。当面の間、新型コロナウイルス感染症防止策として入館者を県在住者に限定している。問い合わせは同資料館(☎0172-393432)へ。(稲葉智絵)

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先] 弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。